

第21回 沖縄 平和の旅 (案)

2023年9月〇〇日

日キ教組連執行委員長 ●●●●

担当：藤本公俊（日キ教組連）

宜野湾市のど真ん中にある普天間飛行場は、世界一危険な飛行場と言われ、絶えず事故の危険性と爆音にみまわれています。戦後、民有地を強圧的に奪い取られて建設された米軍基地は老朽化が進み、米軍は新たな基地の提供を日本政府に（日本国民の税金で！）を求めています。自民党政府は、基地の整理縮小を望む沖縄県民の願いを逆にとり、普天間飛行場の名護市東海岸の辺野古（ヘノコ）への移転を強引に進めようとしています。1997年の市民投票では、新たな基地の建設にNOを表明したにも関わらず、岸本名護市長（当時）は、名護市周辺の地域に10年間で1000億円の振興基金と引き換えに、政府と手を結んでしまいました。辺野古移設を掲げた玉城デニー知事が2期連続当選しても、県民の約7割が埋め立てに反対と表明しても、また、軟弱地盤で建設は技術的に不可能だと明らかになっても、国は辺野古の新基地建設をあきらめていません。人を助ける海上保安庁の職員は辺野古のカヌーの一般市民を、暴力で排除しています。戦後続く、いや明治時代、琉球王国に対する琉球処分から脈々と続く沖縄差別の結果だと思えます。

上記のことを鑑みて、日キ教組連として、第21回目の「沖縄 平和の旅」を企画しました。

〔1〕案内・講演をお願いする方（予定・交渉中を含む）

●謝花悦子さん

財団法人わびあいの里理事長。伊江島の平和運動のリーダーである阿波根昌鴻さんと共に行動をされてきた。阿波根さんの思想と実践は、岩波新書の『米軍と農民』と『命こそ宝』にも紹介されている。

●大畑豊さん

地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際 NGO 非暴力平和隊の共同代表。わびあいの里のスタッフを経て、辺野古新基地に反対する海上行動のメンバー（抗議船船長）。

●平良仁勇さん

久米島出身。9歳でハンセン病を発病。家族から引き離され愛楽園に収容。17歳で帰郷したが、就職や結婚を経て病気が再発。愛楽園に再入所。妻が心を壊し命を絶つ。HIV人権ネットワーク沖縄の子どもたちの「温かい心」に触れたことがハンセン病回復者と公表する契機になった。愛楽園のボランティアガイド。

●鈴木公子さん

辺野古新基地に反対するカヌーチーム辺野古ブルーのメンバー。千葉さんの裁判を支援する会の共同代表。

●島しづ子さん

日本基督教団うふざと伝道所牧師。長く、名古屋市で牧師と幼稚園の園長、その後、障がいを持つ人の支援をする。2020年沖縄に移住、辺野古新基地に反対する海上行動のメンバー（抗議船船長）

●前泊博盛さん

琉球新報社論説委員長を経て、沖縄国際大学経済学部教授。基地・軍事経済が与える地域経済への影響、経済安全保障、島嶼の経済・産業発展政策について研究されている。『日米安保Q&A「普天間問題」を考えるために』（岩波ブックレット2010）など著書多数。テレビのニュース解説などにも多数出演されている。

●その他として、4日目の南部戦跡は、**平和学習のためのガイドをされている方**に案内をお願いします。

〔2〕日程 12月25日～29日（スケジュール・講師は都合により変更になる事があります）

〔3〕費用 9万円～10万円 人数および出発場所により違います。

〔4〕締め切り 11月下旬 定員（22人）になりしだい締め切ります。

〔5〕申し込み方法 郵便、FAX、google forms またはEメール（担当：藤本）で連絡を下さい。

Google forms <https://forms.gle/CGRFRT3wnT76nu4F9>



Eメール fujimotokumiai@gmail.com